

# 令和四年度 奈良県教育長賞

## 税金とは

奈良県立商業高等学校 一年 澤田 智也

「税金」と聞くと良いイメージはない。自分が身近に感じる税が消費税。高校生の少ないこずかいの中から十パーセントの消費税はきつい。なんだかとられた損な気分さえする。消費税は国によって額が違う様だ。ハンガリーでは二十七パーセントもかかってしまう。まだ日本はそれほど高くないのか。この十パーセントの内訳をみると、二・二パーセントが地方消費税と表記されていた。奈良県で買い物をするとその県内で県民の暮らしを充実させるために使われるという。よくよく考えてみると、自分の支払った消費税は自分の為に形を変えて戻ってきているのか。自分の通っていた中学校での教育、通う道路の整備や病気やケガをした時の医療。すごいお金がかかっていると思った。千円支払った消費税が百円で、その内二十二円が地方消費税。損をしたような気持ちでいたが、実は得をしているのかもしれない。たった二十二円で足りているのか？次は財政が気になった。見るとびっくりする程の財政赤字だった。そしてそれは減るところかどんどん増えていた。税収より歳出が上回っていた。どんなことに税金が使われ、赤字になってしまっているのか調べた。すると社会保障費の額が一番多く、年々増え続けているのに驚いた。年金、医療、介護、子ども、子育てといった生きていく上でとても大切な制度。この制度を維持するのに莫大なお金がかかっているようだ。他にも新型コロナウイルスの拡大も財政に大きく影響した。実際、コロナウイルスで自分の家の自営業も大きな打撃を受けたそうだ。収入が激減してしまい、国から国民一人一人に配布された十万円がとても有難かったようだ。

又、日本は地震や洪水など震災がとても多い。テレビで震災の様子、被災地の様子を目にすると同じ日本で起こっているのかと思う程、悲惨な光景を目にする。自分はこんな辛い思いをした事がないから分からないが、自分だったらと考えると怖くなる。家が流されたり今食べる物さえない時に救援物資が届けられる。仮設住宅が建てられ、被災地を元の姿に戻す工事も行われる。税金は、お互いを助け合う為のものなのだと思う。だから、しっかり納めなければならない。高校生の自分が支払えるのは消費税のたった十パーセントだけれど、将来自分が大人になった時は、社会の一員として安心して暮らせる社会のために「納税」という義務をはたしていきたいと思います。